

# 登録申請書類

様式 1

## 新技術情報提供システム（NETIS）登録申請書

平成 年 月 日

受付地整等

国土交通省

〇〇地方整備局長（北海道開発局長）

〇 〇 〇 殿

ふりがな

会社名

法人印

ふりがな

代表者氏名

公印

所在地

電話

「公共工事等における新技術活用システム」の実施規約に同意の上、下記のとおり申請します。

記

1. 技術名称<sup>ふりがな</sup>※1：  
（商標名）<sup>ふりがな</sup>※2：  
NETIS 登録番号(既登録)※2：

2. 担当窓口<sup>ふりがな</sup>：氏名

会社名

所属

所在地

電話

FAX

※1：技術名称は、その技術の内容及び特色が容易に理解できるものとして下さい。

## 新技術情報入力システム入力画面(イメージ)

様式2

(名称・分類)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.600

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

**技術名称** ○○型鋼矢板  
※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

**副題** 建設コスト縮減に寄与する○○型鋼矢板

技術開発年 2010 (半角入力)例: 1997 記入年月日 2010/01/28 (半角入力)例: 1997/04/01

情報提供の範囲  
 国土交通省のみ  一般

**分類・区分**  
レベル1から順に選択してください。(新技術が主に活用される分類を分類1に入力してください。)

分類1	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
仮設工	矢板工	矢板・H鋼打設工		
分類2	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類3	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類4	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
分類5	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4

区分

**キーワード**

<input type="checkbox"/> 安全・安心	<input type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 情報化
<input checked="" type="checkbox"/> コスト縮減・生産性の向上	<input checked="" type="checkbox"/> 公共工事の品質確保・向上	<input type="checkbox"/> 景観
<input type="checkbox"/> 伝統・歴史・文化	<input type="checkbox"/> リサイクル	

自由記入

**開発目標**

<input type="checkbox"/> 省人化	<input checked="" type="checkbox"/> 省力化	<input checked="" type="checkbox"/> 経済性の向上
<input type="checkbox"/> 施工精度の向上	<input type="checkbox"/> 耐久性の向上	<input type="checkbox"/> 安全性の向上
<input type="checkbox"/> 作業環境の向上	<input type="checkbox"/> 周辺環境への影響抑制	<input type="checkbox"/> 地球環境への影響抑制
<input checked="" type="checkbox"/> 省資源・省エネルギー	<input type="checkbox"/> 品質の向上	<input type="checkbox"/> リサイクル性向上
<input type="checkbox"/> その他 ( )		

**開発体制**

<input type="radio"/> 単独(産)	<input type="radio"/> 単独(官)	<input type="radio"/> 単独(学)	<input type="radio"/> 共同研究(産・官・学)
<input type="radio"/> 共同研究(産・産)	<input checked="" type="radio"/> 共同研究(産・官)	<input type="radio"/> 共同研究(産・学)	

開発会社 ○○(株)、(株)△△  
(共同開発の場合は、全て記入) (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。)

**問合せ先** 問合せ先(共同開発の場合のみ、その他に記入)

技術 | 営業 | その他 |

会社 ○○工務店(株)

担当部署 技術開発部

担当者 活用 太郎

郵便番号 〒 222 - 2222 (半角入力)

住所 東京都○○区○○

TEL 03-0000-00000 (半角入力 例: 01-234-5678)

FAX 03-0000-00000

E-MAIL (半角入力)

(概要)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.501

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ○○型鋼矢板  
※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

検索結果に表示する技術の概要です。全角127文字以内で入力してください。

技術概要(アブストラクト) (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。)

本技術は、土留め・河川護岸・止水壁工事等に用いる有効幅△△mmの○○型鋼矢板である。これらの工事においては従来、有効幅が400mmまたは600mmのU形鋼矢板を使用して対応してきた。本技術の活用により材料費・施工費の縮減や工期の短縮化を齎ることができる。

NETISに掲載する概要です。

概要 ①～③は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

①何に対して何を改善する技術なのか?  
 ・土留め・河川護岸・止水壁工事等に用いる鋼矢板です。  
 ②どこが新技術なのか?  
 ・現在のU形鋼矢板(SP-II, SP-III, SP-IV)では400mmであった鋼矢板の有効幅を○○mmとした。  
 ・鋼矢板の断面各部の寸法を改良し、鋼重あたりの断面性能を向上させた。  
 ③公共工事のどこに適用できるのか?  
 ・土留め・河川護岸・止水壁工事など鋼矢板を用いる工事全般にわたって適用できます。なお、リース会社に在庫保有されていないため転用材には適用できません。

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル 見出し 列数 0 行数 0

	A	B	C	D	E	F	
1							
2							
3							
4							
5							
6							

新規性及び期待される効果 ①・②は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

①どこに新規性があるのか?従来技術と比較して何を改善したのか?  
 ・鋼矢板の形状を△△形状とした。  
 ・有効幅が○○mmとなり、有効幅△△mmのU形鋼矢板に比べ、1.5倍に拡幅されている。  
 ・U形鋼矢板に比べ、鋼重あたりの断面性能が向上している。  
 ②期待される効果は?新技術活用のメリットは?  
 ・材料費の縮減  
 断面寸法諸元の改良により鋼重あたりの断面性能が向上し、U形鋼矢板に比べ投影面積あたりの鋼重が7%~29%程度低減する。  
 ・工期の短縮化、および施工費の縮減  
 U形鋼矢板に比べ、有効幅が1.5倍に拡幅されているため同一施工延長に対する鋼矢板の使用枚数が、2/3に減少し、工期の短縮化や施工費の縮減が可能となりパイプロイヤメント工法では約15~25%の施工費削減。  
 ・施工性および構造信頼性の向上  
 △△形状の採用により、U形鋼矢板に比べて長尺施工が可能です。また、継手の位置が壁体の外縁となるため、継手効率による断面性能の低減が不要です。

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル 見出し 列数 0 行数 0

	A	B	C	D	E	F	
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

**適用条件** ①～④は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続する英数字は入力できません。) 全角で 1000文字まで

- ①自然条件
- ・適用土質に関しては、現行のU形鋼矢板と同様である。
- ②現場条件
- ・作業スペースは現行のU形鋼矢板の場合と同規模である。
- ・パイロハンマ施工における使用機械と、ほぼ同じである。なお、鋼矢板の把持チャックは〇〇型専用のチャックを用いる。
- ・施工場所は陸上部、水面上部とも可能である。
- ・適用長さ(埋設型鋼矢板)と同等以上と考えている。
- ③技術提供可能地域
- ・技術提供地域については制限無し。
- ④関係法令
- ・鋼矢板の設置工事において、下記の関係法令等を遵守する。  
「騒音規制法」(法96)、「振動規制法」(法64)

**適用範囲** ①～④は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続する英数字は入力できません。) 全角で 1000文字まで

- ①適用可能な範囲
- ・断面性能は、概ねI型鋼矢板のⅡ型およびⅢ型と同程度であり、これらの適用範囲が〇〇型鋼矢板の適用可能範囲である。
- ②特に効果の高い適用範囲
- ・形状特性から継手効率による断面剛性の低減を必要としないため、顕著なコーピングコンクリート等の拘束がなく継手効率による低減率が高いU形鋼矢板壁の代替として適用する場合は特に建設コストの低減効果が大きい。
- ③適用できない範囲
- ・軽用使用に関しては、リース材として保有されていないため、適用できない。
- ④適用にあたり、関係する基準およびその引用元
- ・適用基準等は下記の通りです。  
1.国土交通省大臣官房技術調査課監修国土交通省土木工事積算基準  
2.(社)全国防炎協会災害復旧工事の設計要綱  
3.国土交通省港湾局監修(社)日本港湾協会港湾の施設の技術上の基準・同解説
- 留意事項

**留意事項** ①～④は入力支援コメントです。変更及び削除はしないでください。

文章 (半角カタカナ及び連続する英数字は入力できません。) 全角で 1000文字まで

- ①設計時
- ・〇〇型鋼矢板は、嵌合継手の位置が壁面の外縁に位置するため、設計時においてU形鋼矢板のように継手効率による低減を考慮する必要はない。
- ・継手部の嵌合余裕を用いて、曲線施工等を計画する場合は、継手一力所当たりの回転可能角度が、U形鋼矢板を用いた場合よりも6°だが、〇〇型鋼矢板の場合には4°以上になるので留意する。
- ②施工時
- ・〇〇型鋼矢板の両側継手の形状が異なるため、U形鋼矢板のように天地を逆に使用することができないので、建込み時には鋼矢板の設置向きを誤ることがないように留意する。
- ・パイロ工法では、パイロ本体側には、現行機が適用できるが、〇〇型鋼矢板の形状に対応させた専用のチャックが必要となる。なお、土質条件や打ち込み長によっては能力の大きな機種を必要とする場合がある。
- ・油圧圧入工法の場合は、〇〇型鋼矢板用の専用機が必要となる。
- ③維持管理等
- ・維持管理に関しては、現行のU形鋼矢板と同じである。
- ④その他
- ・U形鋼矢板の継手と嵌合保証されないため、連続して〇〇型を設置する場合は、接続用の異形鋼矢板が必要となる。

# (従来技術との比較)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.501

メニュー 名称・分類等 概要 従来技術との比較 施工実績等 印刷プレビュー ヘルプ 保存

技術名称 ○○型鋼矢板  
※タイトルが太字の項目は入力必須項目です。

### 活用の効果

従来技術名 U形鋼矢板  
比較の対象となる従来技術名を記入していただければ、以下の各項目を入力することはできません。

活用の効果の根拠 経済性及び工程は、「活用の効果の根拠」にて、新技術及び従来技術の内訳を記入してください。算出された変化値により自動で選択されます。

変化値 比較のポイント

経済性  向上  同程度  低下 15.03 % 材料費、施工費の低減

工程  短縮  同程度  増加 21.4 % 作業効率の向上

品質  向上  同程度  低下

安全性  向上  同程度  低下

施工性  向上  同程度  低下

周辺環境への影響  向上  同程度  低下

技術のアピールポイント(課題解決への有効性) (全角127文字)  
有効幅を大きくして、同一施工延長での使用枚数を減らした。

新技術のコストタイプ  
コストタイプの選択

### 施工単価

文章 (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

施工単価  
・施工法を電動式パイロニア単独工(本設工事)とした場合の施工単価とコスト削減率を表-1に示す。  
・削減率は、U形鋼矢板SF-11型×10mmの施工単価をベースとして○○型鋼矢板900(11×10mm)について算出した。  
・○○型鋼矢板の施工費は○○協会編○○型鋼矢板積算基準(暫定版)によって算出した。また、U形鋼矢板の材料単価は、建設物価調査会編「建設物価△年△月号」より引用した。

登録技術の費用内訳書を、以下の表に記入してください。初期記入内容は入力参考例です。内容を確認後、表に入力してください。

表タイトル 表-1壁1mあたりの積算例(単位千円) 見出し 列数 1 行数 1

	A	B	C	D	E	F	G
1 工種		従来工法	○○型鋼矢板	削減率(%)	備考		
2 材料費		98.40	84.46	16.5			
3 施工費		15.26	12.14	20.4			
4 合計		113.66	15.0	15.0			
5							
6							
7							

なし  標準歩掛  暫定歩掛  協会歩掛  自社歩掛

### 施工方法

文章 (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

・パイロニア工法施工法に関しては、現行型鋼矢板と同様の施工方法が適用可能です。  
・油圧式圧入引揚機は○○型鋼矢板用の専用機が必要となります。専用機は既に全国に普及しています。

写真 選択 クリア 写真タイトル

ファイル名

表タイトル 見出し 列数 0 行数 0

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

### 残された課題と今後の開発計画

①・②は入力支援コメントです。変更及び削除しないでください。

文章 (半角約) 及び 連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

・リース材として保有されていないため転用材としては適用ができません。

(施工実績)

新技術情報入力システム(建設版) Ver7.600

メニュー | 名称・分類等 | 概要 | 従来技術との比較 | 施工実績等 | 印刷プレビュー | ヘルプ | 保存

技術名称 ○○型鋼矢板  
※タイトルが 太字 の項目は入力必須項目です。

**施工実績**

実績件数(国土交通省(旧建設省、旧運輸省含む))

国土交通省  件  
(半角入力)

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないで下さい。

実績追加 | 実績編集 | 実績削除 国土交通省における施工実績(20件まで)

工事名	事業種類	地方整備局名	事務所	施工開始	施工終了	CORINS 登録 No.
▶ ○○護岸工事	一般工事	本省		2009/01/01	2010/01/01	*****

実績件数(国土交通省(旧建設省、旧運輸省含む)以外)

その他公共機関  件  
(半角入力)

民間  件  
(半角入力)

現在入力している新技術に関するもの以外は入力しないで下さい。

実績追加 | 実績編集 | 実績削除 国土交通省以外における施工実績(20件まで)

工事名	発注者(種別)	発注者(事務所)	施工開始	施工終了	CORINS 登録 No.
▶					

**特許・実用新案**

特許情報1 | 特許情報2 | 特許情報3 | 特許情報4 | 特許情報5

特許番号

※以降の項目は、「特許番号」に入力がある場合のみ入力可能

特許  有り  出願中 | 特許-通常実施権  有り  無し | 特許-専用実施権  有り  無し

特許権者

実施権者

特許料等

実施形態

問合せ先

実用新案  有り  出願中  出願予定  無し | 実施新案-通常実施権  有り  無し | 実施新案-専用実施権  有り  無し

※有りの場合:特許番号

**実験等実施状況**

文章 (半角英数及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

写真   写真タイトル ファイル名 表タイトル 見出し 列数  行数 

	A	B	C	D	E	F	C
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

**添付資料**

文章 (半角英数及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

**参考文献**

文章 (半角英数及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

**その他(写真及びタイトル)**

画像ファイル名を選択して下さい。

その他の写真1   写真タイトル ファイル名1 その他の写真2   写真タイトル ファイル名2 その他の写真3   写真タイトル ファイル名3 

注) その他の写真1,2,3の画像は最後に表示されます。

写真や図などは、GIF あるいは JPEG 形式の画像ファイルにしてください。  
 画像の横幅は最大でも 横600ピクセル(ドット)におさまるようにしてください。  
 画像ファイルの大きさは 185K バイト 以内にしてください。



この様式に記載された事項は新技術活用評価委員会の参考資料として使用されます(NETISへの登録及び外部への公表は行いません)

様式4

比較表

技術名：○○○工法

	新技術 ○○○工法	従来技術 ***工法	従来技術 M建設式◇◆工法	従来技術 △▲▽機工法	従来技術 ○○○システム
工法概要					
概略図					
経済性 評価					
工程・工期 評価					
品質 評価					
出来形 評価					
現場条件 評価					
設計条件 評価					
安全性 評価					
NETIS番号					
備考					
総合評価					

比較表

## 試行調査の調査内容

試行調査表

技術の名称							
開発会社名							
NETIS登録番号							
従来技術名称							
評価項目			従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較	調査結果	
大	中	小					
1. 経済性	イニシャルコスト						
	ランニングコスト						
	その他						
	トータルコスト						
評価項目			①現行基準値等	②申請技術について実証により確認した数値等	③従来技術との比較	調査結果	
大	中	小					
2. 安全性	構造						
	施工段階						
3. 耐久性	物性						
	形状						
	機能						
4. 品質・出来形	材料						
	施工						
5. 施工性	合理化						
	現場条件						
適用範囲							
自然条件							
施工管理							
施工能力							
難易度							
6. 周辺環境に与える影響	社会環境						
	作業環境						

## 活用効果調査の調査内容

様式Ⅳ-7 活用効果調査表(1)/個別-発注課長用

新技術名				
実施事務所				
調査者		所属: 氏名: 連絡先:		
従来技術				
全体 工事 概要	工事費			
	施工会社			
調査項目	I 経済性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位当りの関係するコスト(施工費、維持管理費等)と従来技術を使った場合の概算コストを比較する。</li> <li>・試行申請型、発注者指定型、フィールド提供型の場合、発注課長が記入する。</li> <li>・施工者希望型の場合は請負者が記入する(活用の型により入力制限あり)。</li> </ul>		
			従来工法	新技術
	当り	千円	千円	千円
	評価点 $= 100 + 100 \times \text{コスト差} / \text{従来技術コスト} (0 \sim 200 \text{点})$ =			
活用調査結果				

様式 IV-8-1 活用効果調査表(2)/個別-主任監督員用

記入要領

- ①全ての調査項目について調査を行って下さい。  
ただし、その他については、内容の記載した場合に、評価点へのチェックを行ってください。
- ②調査項目はすべて必須記入です。
- ③定性調査内容に対する評価点は5段階評価とし、該当する評価点をチェックしてください。  
従来技術に比べ優れている。 (+2)  
# やや優れている。 (+1)  
# 同程度である。 (0)  
# やや劣っている。 (-1)  
# 劣っている。 (-2)
- ④記載している項目に該当がない場合は、「その他追加調査した結果」に追記してください。
- ⑤評価できない項目がある場合は、0で評価してください。
- ⑥評価点は調査内容ごとに合計点を算出し、計算式に従って算出してください。  
Ⅲ～Ⅵは次の計算式です:  $100 + (50 \times \text{得点}) / \text{選択項目数}$
- ⑦各所見欄に、採点をした理由等の所見を記入してください。
- ⑧高い評価点及び低い評価点をつけた場合には、その理由を留意点に記載して下さい。

<b>調査者</b>		所属:		
		氏名:		
		連絡先:		
<b>工事期間</b>		～		
<b>新技術 施工期間</b>		～		
<b>実施 事業 概要</b>	<b>調査項目</b>		1 活用効果調査    2 歩掛調査    3 施工管理調査    4 追跡調査	
	<b>対象数量</b>	<b>工種</b>	※入カシステムでは表示されません	
		<b>施工数量</b>		
	<b>現場施工条件</b>			
<b>従来技術</b>				
<b>共通</b>	<b>施工上重大な問題が発生したか</b>	発生した    発生していない		
<b>I 経 済 性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位当りの関係するコスト(施工費、維持管理費等)と従来技術を使った場合の概算コストを比較する。</li> <li>・試行申請型、発注者指定型、フィールド提供型の場合、発注課長が記入した数値が表示される。施工者希望型の場合は請負者が記入した数値が表示される(活用の型に inputs の制限あり)。</li> </ul>			
		<b>従来工法</b>	<b>新技術</b>	<b>コスト差</b>
	<b>当り</b>	千円	千円	千円
	評価点 $= 100 + 100 \times \text{コスト差} / \text{従来技術コスト} (0 \sim 200 \text{点})$ =			
<b>調査結果</b>				
<b>II 工 程</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来技術と新技術の対応する施工サイクルについて、施工単価当りの実施施工日数と従来技術の施工日数(概算)を比較する。</li> </ul>			
		<b>従来工法</b>	<b>新技術</b>	<b>短縮日数</b>
	<b>単位数量当り</b>	日	日	日
	評価点 $= 100 + 200 \times \text{短縮日数} / \text{従来技術の施工日数} (0 \sim 200 \text{点})$ =			
<b>調査結果</b>				
<b>調査内容</b>			<b>評価点</b>	

III 品質・出来形	調査内容		評価点				
	品質は向上したか？		+2	+1	0	-1	-2
	出来形・精度は向上したか？		+2	+1	0	-1	-2
	耐久性が向上する構造になったか？		+2	+1	0	-1	-2
	品質・出来形の管理項目は減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	品質・出来形の管理頻度は減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
			得点:				
	評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =						
調査結果							
IV 安全性	調査内容		評価点				
	墜落・転落事故の危険性が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	重機災害の危険性が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	飛来・落下物災害の危険性が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	作業環境が向上したか？(暗がり・騒音・狭所作業等の減少)		+2	+1	0	-1	-2
	危険物等の取り扱いが減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
			得点:				
	評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =						
調査結果							
V 施工性	調査内容		評価点				
	現場での施工が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	仮設工が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	作業員が容易になったか？		+2	+1	0	-1	-2
	熟練度に依存した工程が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	施工の機械化の程度は向上したか？		+2	+1	0	-1	-2
	施工時の制約条件が減少したか？		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
	その他 ( )		+2	+1	0	-1	-2
			得点:				
評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =							
調査結果							

		調査内容	評価点				
VI 環 境		周辺の大気汚染・土壌汚染・水質汚染が減少したか？	+2	+1	0	-1	-2
		騒音・振動・粉塵等が減少したか？	+2	+1	0	-1	-2
		周辺の自然・生態環境・景観との調和は向上したか？	+2	+1	0	-1	-2
		産業廃棄物の発生量は減少したか？(リサイクル性の向上)	+2	+1	0	-1	-2
		省エネルギー、省資源化が向上したか？	+2	+1	0	-1	-2
		その他 ○	+2	+1	0	-1	-2
		その他 ○	+2	+1	0	-1	-2
			得点:				
評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =							
		調査結果					
VII そ の 他		調査内容	コメント				
		その他 ○					
		その他 ○					
		その他 ○					
		調査結果					
		総合的な所見					
		その他追加調査した結果					

様式 IV-8-3 活用効果調査表(3)/請負者・技術開発者側提出用

記入要領

- ①全ての調査項目について調査を行って下さい。  
ただし、その他については、内容の記載した場合に、評価点へのチェックを行ってください。
- ②調査項目はすべて必須記入です。
- ③定性調査内容に対する評価点は5段階評価とし、該当する評価点をチェックしてください。  

従来技術に比べ優れている。	(+2)
# やや優れている。	(+1)
# 同程度である。	(0)
# やや劣っている。	(-1)
# 劣っている。	(-2)
- ④記載している項目に該当がない場合は、「その他追加調査した結果」に追記してください。
- ⑤評価できない項目がある場合は、0で評価してください。
- ⑥評価点は調査内容ごとに合計点を算出し、計算式に従って算出してください。  
Ⅲ～Ⅵは次の計算式です： $100 + (50 \times \text{得点}) / \text{選択項目数}$
- ⑦各所見欄に、採点をした理由等の所見を記入してください。
- ⑧高い評価点及び低い評価点をつけた場合には、その理由を留意点に記載して下さい。

<b>調査者</b>	所属： 氏名： 連絡先：			
<b>従来技術</b>				
<b>当該現場条件</b>	<b>自然環境</b> (騒音、振動、水質等)			
	<b>周辺環境</b> (病院、学校、鉄塔の有無等)			
	<b>現場条件</b>			
<b>I 経済性</b>	・単位当りの関係するコスト(施工費、維持管理費等)と従来技術を使った場合の概算コストを比較する。 ・試行申請型、発注者指定型、フィールド提供型の場合、発注課長が記入する。 施工者希望型の場合は請負者が記入する(活用の型により入力制限あり)。			
		<b>従来工法</b>	<b>新技術</b>	<b>コスト差</b>
	<b>当り</b>	千円	千円	千円
	評価点 $= 100 + 100 \times \text{コスト差} / \text{従来技術コスト}(0 \sim 200 \text{点})$ =	<b>調査結果</b>		
<b>II 工程</b>	・従来技術と新技術の対応する施工サイクルについて、施工単価当りの実施施工日数と従来技術の施工日数(概算)を比較する。			
		<b>従来工法</b>	<b>新技術</b>	<b>短縮日数</b>
	<b>単位数量当り</b>	日	日	日
	評価点 $= 100 + 200 \times \text{短縮日数} / \text{従来技術の施工日数}(0 \sim 200 \text{点})$ =	<b>調査結果</b>		

		調査内容	評価点
Ⅲ 品質・出来形		品質は向上したか？	+2 +1 0 -1 -2
		出来形・精度は向上したか？	+2 +1 0 -1 -2
		耐久性が向上する構造になったか？	+2 +1 0 -1 -2
		品質・出来形の管理項目は減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		品質・出来形の管理頻度は減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
			得点：
		評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =	
		調査結果	
Ⅳ 安全性		調査内容	評価点
		墜落・転落事故の危険性が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		重機災害の危険性が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		飛来・落下物災害の危険性が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		作業環境が向上したか？(暗がり・騒音・狭所作業等の減少)	+2 +1 0 -1 -2
		危険物等の取り扱いが減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
			得点：
		評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =	
	調査結果		
Ⅴ 施工性		調査内容	評価点
		現場での施工が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		仮設工が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		作業員が容易になったか？	+2 +1 0 -1 -2
		熟練度に依存した工程が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		施工の機械化の程度は向上したか？	+2 +1 0 -1 -2
		施工時の制約条件が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
		その他（）	+2 +1 0 -1 -2
			得点：
	評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =		
	調査結果		

		調査内容	評価点
VI 環境		周辺の大気汚染・土壌汚染・水質汚染が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		騒音・振動・粉塵等が減少したか？	+2 +1 0 -1 -2
		周辺の自然・生態環境・景観との調和は向上したか？	+2 +1 0 -1 -2
		産業廃棄物の発生量は減少したか？(リサイクル性の向上)	+2 +1 0 -1 -2
		省エネルギー、省資源化が向上したか？	+2 +1 0 -1 -2
		その他 ( )	+2 +1 0 -1 -2
		その他 ( )	+2 +1 0 -1 -2
			得点:
		評価点 = 100 + (50 × 得点) / 選択項目数 =	
		調査結果	
VII その他		調査内容	コメント
		その他 ( )	
		その他 ( )	
		その他 ( )	
		調査結果	
		総合的な所見	
		その他追加調査した結果	
【NETIS資料・施工状況等の写真】			

## 材料・製品の活用効果調査の調査内容

## 活用効果調査表(1)／個別一発注課長用(材料・製品版)

新 技 術 名				
実 施 事 務 所				
調査者(所属・氏名・連絡先)				
活用の型		<input type="checkbox"/> 発注者指定型 <input type="checkbox"/> 施工者希望型 <input type="checkbox"/> フィールド提供型 <input type="checkbox"/> 試行申請型		
従 来 技 術				
採用理由 (採用した項目に「○」、採用した理由等があれば「特に採用した理由等があれば記入」欄に記入)		採用した項目	特に採用した理由等があれば記入	
	経 済 性			
	工 程	—		
	品 質・出 来 形			
	安 全 性			
	施 工 性	—		
	環 境			
現場施工条件				
調 査 項 目	I 経 済 性	・単位当たりの関係するコスト(施工費、維持管理費等)と従来技術を使った場合の概算コストを比較する。		
			従来工法	新技術
	単位数量当り			
	評 価 点			
活用効果調査結果				

※本技術は、材料又は製品等で簡易な調査で良いと判断された技術であるため、「工程」及び「施工性」については、調査の対象としない。

## 活用効果調査表(2)／個別－主任監督員用(材料・製品版)

調査者 (所属・氏名・連絡先)							
従来技術							
当該現場条件							
自然環境(騒音、振動、水質等)	周辺環境(病院、学校、鉄塔の有無等)	現場条件					
共通	施工上重大な問題が発生したか		<input type="checkbox"/> 発生した <input type="checkbox"/> 発生していない				
調査項目	II 工 程	・従来技術と新技術の対応する施工サイクルについて、施工単位当たりの実施施工日数と従来技術の施工日数(概算)を比較する。					
		従来工法	新技術				
		短縮日数					
		施工日数(工事量当たり)					
	評価点						
	調                      査                      結                      果						
	—						
	III 品 質 ・ 出 来 形	調査内容	評価点				
		<input type="checkbox"/> 供用後の使用性の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 出来形・精度は向上したか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
<input type="checkbox"/> 耐久性が向上する構造になったか?		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目は減少したか?		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度は減少したか?		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> その他(                      )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> その他(                      )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
評価点		得点					
調                      査                      結                      果							
IV 安 全 性	調査内容	評価点					
	<input type="checkbox"/> 墜落・転落事故の危険性が減少したか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> 重機災害の危険性が減少したか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> 飛来・落下物災害の危険性が減少したか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> 作業環境が向上したか? (暗がり・騒音・狭所作業等の減少)	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> 危険物等の取り扱いが減少したか?	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> 施工後の安全性は向上したか	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
	<input type="checkbox"/> その他(                      )	<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
評価点		得点					
調                      査                      結                      果							

調査項目	施工性	調査内容		評価点				
		<input type="checkbox"/> 現場での施工が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 仮設工が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 作業員が容易になったか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 熟練度に依存した工程が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 施工の機械化の程度は向上したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 施工時の制約条件が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		評価点		得点				
調 査 結 果								
調査項目	環境	調査内容		評価点				
		<input type="checkbox"/> 周辺の大気汚染・土壌汚染・水質汚染が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 騒音・振動・粉塵等が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 周辺の自然・生態環境・景観との調和は向上したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 産業廃棄物の発生量は減少したか？(リサイクル性の向上)		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 省エネルギー、省資源化が向上したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		評価点		得点				
		調 査 結 果						
調査項目	その他	調査内容		コメント				
		その他( )						
		その他( )						
		その他( )						
		調 査 結 果						

耐久性を含む要求性能に対する評価
—
総合的な留意点
活用効果調査結果

記入要領

- ①調査が可能な調査内容をチェックしてください。
- ②定性調査内容に対する評価点は5段階評価とし、該当する評価点をチェックしてください。
 

従来技術に比べ優れている。	(+2)
” やや優れている。	(+1)
” 同程度である。	( 0)
” やや劣っている。	(-1)
” 劣っている。	(-2)
- ③標準で記載されている調査内容(小項目)については全て評価を行うこと。  
それ以外で特段評価すべき調査内容(小項目)がある場合には「その他」に追記する。  
ただし、主任監督員の調査表と、施工者・NETIS申請者の調査表は調査内容(小項目)の整合を図ること。
- ④Ⅰ～Ⅵの調査項目に該当しない項目がある場合にのみ、Ⅶその他を使用してください。
- ⑤評価点は調査内容ごとに合計点を算出し、計算式に従って算出して下さい。  
Ⅲ～Ⅵは次の計算式です： $100 + (50 \times \text{得点}) \div \text{選択項目数}$
- ⑥各調査項目の調査結果欄に、採点をした理由等の所見を記入してください。  
特に(+2)、(-2)と評価した場合は、必ずその事由を記入してください。

### 活用効果調査表(3)／請負者・技術開発者側提出用(材料・製品版)

調査者 (所属・氏名・連絡先)					
従来技術					
活用の型		<input type="checkbox"/> 施工者希望型 <input type="checkbox"/> 施工者希望型以外			
採用理由 (採用した項目に「○」、採用した理由等があれば「特に採用した理由等があれば記入」欄に記入)		採用した項目	特に採用した理由等があれば記入		
	経済性				
	工程	—			
	品質・出来形				
	安全性				
	施工性	—			
	環境				
当該現場条件					
自然環境(騒音、振動、水質等)		周辺環境(病院、学校、鉄塔の有無等)	現場条件		
調査項目	I 経済性	調 査 結 果			
	II 工程	調 査 結 果			
		—			
	III 品質・出来形	調査内容		評価点	
		<input type="checkbox"/> 供用後の使用性の向上が期待できるか？		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2	
		<input type="checkbox"/> 出来形・精度は向上したか？		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2	
		<input type="checkbox"/> 耐久性が向上する構造になったか？		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2	
		<input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理項目は減少したか？		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2	
		<input type="checkbox"/> 品質・出来形の管理頻度は減少したか？		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2			
<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2			
評価点		得点			
		調 査 結 果			

調査項目	IV 安 全 性	調査内容		評価点				
		<input type="checkbox"/> 墜落・転落事故の危険性が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 重機災害の危険性が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 飛来・落下物災害の危険性が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 業環境が向上したか？(暗がり・騒音・狭所作業等の減少)		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 危険物等の取り扱いが減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 施工後の安全性は向上したか		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
	評価点		得点					
	調 査 結 果							
	V 施 工 性	調査内容		評価点				
		<input type="checkbox"/> 現場での施工が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 仮設工が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 作業員が容易になったか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 熟練度に依存した工程が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 施工の機械化の程度は向上したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> 施工時の制約条件が減少したか？		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
		<input type="checkbox"/> その他( )		<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2
	評価点		得点					
	調 査 結 果							
	VI 環 境	調査内容		評価点				
<input type="checkbox"/> 周辺の大気汚染・土壌汚染・水質汚染が減少したか？			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 騒音・振動・粉塵等が減少したか？			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 周辺の自然・生態環境・景観との調和は向上したか？			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 産業廃棄物の発生量は減少したか？(リサイクル性の向上)			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> 省エネルギー、省資源化が向上したか？			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> その他( )			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
<input type="checkbox"/> その他( )			<input type="checkbox"/> +2	<input type="checkbox"/> +1	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> -1	<input type="checkbox"/> -2	
評価点		得点						
調 査 結 果								
VII そ の 他	調査内容		コメント					
	その他( )							
	その他( )							
	その他( )							
調 査 結 果								

耐久性を含む要求性能に対する評価
—
総合的な留意点
活用調査結果

記入要領

- ①調査が可能な調査内容をチェックしてください。
- ②定性調査内容に対する評価点は5段階評価とし、該当する評価点をチェックしてください。
 

従来技術に比べ優れている。	(+2)
"  やや優れている。	(+1)
"  同程度である。	( 0)
"  やや劣っている。	(-1)
"  劣っている。	(-2)
- ③標準で記載されている調査内容(小項目)については全て評価を行うこと。  
それ以外で特段評価すべき調査内容(小項目)がある場合には「その他」に追記する。  
ただし、主任監督員の調査表と、施工者・NETIS申請者の調査表は調査内容(小項目)の整合を図ること。
- ④Ⅰ～Ⅵの調査項目に該当しない項目がある場合にのみ、Ⅶその他を使用してください。
- ⑤評価点は調査内容ごとに合計点を算出し、計算式に従って算出して下さい。  
Ⅲ～Ⅵは次の計算式です： $100 + (50 \times \text{得点}) \div \text{選択項目数}$
- ⑥各調査項目の調査結果欄に、採点をした理由等の所見を記入してください。  
特に(+2)、(-2)と評価した場合は、必ずその事由を記入してください。

## 追跡調査の調査内容

様式IV-11

記入日:平成 年 月 日

## 公共工事等における新技術活用システム

## 活用効果調査表(追跡調査)／個別

※ NETIS番号		※ 新技術名	
調査者		施工後年数	年
※ 実施事務所			
※ 工事名			
※ 施工数量			
※ 追跡調査内容			
※ 活用後調査結果			
※ 調査内容	評価	新技術の調査結果	今後の方針
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> +2 <input type="checkbox"/> +1 <input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> -1 <input type="checkbox"/> -2		
評価点	得点	0	
		=100+(50×0)／0	
		=100+0／0 = (点)	

注1) 記入は、当該技術の活用効果調査表を記入した主任監督員の後任の監督員が行うものとする。

注2) ※は追跡調査を依頼する評価会議事務局にて記入する。

〔改訂日H22.O.O〕

## 申請書類

公共工事等における新技術活用システム  
活用・評価申請書

平成 年 月 日

国土交通省  
\_\_\_\_地方整備局長 / 北海道開発局長  
殿

会社名

法人印

代表者氏名

公印

所在地

電話

\_\_\_\_地方整備局において NETIS 登録済みの新技術について、下記のとおり申請します。

## 記

- ①新技術名称  
②NETIS登録番号  
③申請内容（次のいずれかのうち、希望する方を○で囲んでください。）

活用 / 事後評価のみ

- ④申請会社等  
郵便番号  
住所  
会社名  
部署  
実務担当者  
電話番号  
FAX  
E-Mail アドレス

- ⑤提出資料
- |          |    |
|----------|----|
| 技術概要説明資料 | 3部 |
| 技術詳細説明資料 | 3部 |
| 比較表      | 3部 |
| 参考資料     | 3部 |
| 電子データ    |    |

# 公共工事等における新技術活用システム

## 活用申請書

平成 年 月 日

活用地整

国土交通省

〇〇地方整備局長（北海道開発局長）

〇〇 〇 殿

請負者

会 社 名

法人印

代表者氏名

公 印

所 在 地

電 話

（工事名） において、下記のとおり新技術を活用したく申請します。

### 記

1. 新技術名称

〇〇工法

NETIS登録番号

\*\* - 〇〇〇〇〇〇

2. 工事概要

(1)施工場所

(2)施工期間

(3)新技術施工期間

(4)施工内容

(5)新技術内容

(6)全体概略数量

(7)対象数量

(8)施工現場条件

3. 活用理由

（経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境の該当する項目毎に記入）

## 新技術活用計画書

## 新技術活用計画書

事務所名:

作成: 平成 年 月 日

活用の型	<input type="checkbox"/> 発注者指定型 <input type="checkbox"/> 施工者希望型
工事名	

工事に関する事項(工事担当: 課 係 マイクロ - )

新技術名		-		
工事概要	施工場所			
	施工期間	平成 年 月 日	~ 平成 年 月 日	
	新技術施工期間	平成 年 月	~ 平成 年 月	
	施工概要	内容		
		対象数量		
現場施工条件				
活用理由	項目	活用理由の該当項目にチェック	コメント	
	経済性	<input type="checkbox"/>		
	工程	<input type="checkbox"/>		
	品質・出来形	<input type="checkbox"/>		
	安全性	<input type="checkbox"/>		
	施工性	<input type="checkbox"/>		
	環境	<input type="checkbox"/>		

以上のことから上記工法の活用を行うものである。

## 具体的評価方法

### 試行実証評価

#### 1. 試行実証評価の手順

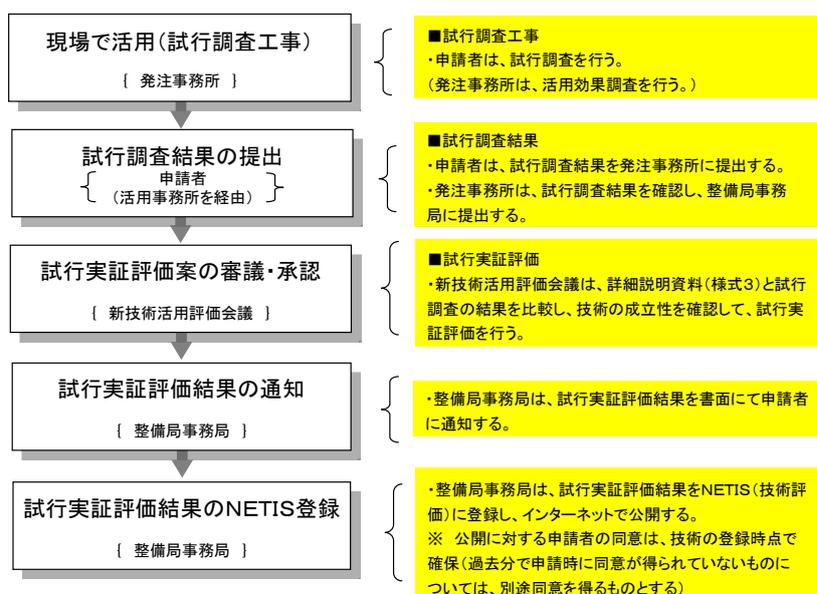


図6－1 試行実証評価のフロー

#### 2. 試行実証評価の実施時期

現場で試行調査が行われ、試行調査結果が提出された段階で速やかに実施

#### 3. 評価基準

表6－1 試行実証評価の評価基準

評価区分	評価基準
○	詳細説明資料(様式3)の「実証により確認した数値等」に比較して、同等またはそれ以上。
△	詳細説明資料(様式3)の「実証により確認した数値等」に達しないが、「現行基準値等」を満足する。
×	詳細説明資料(様式3)の「現行基準値等」(「現行基準値等」が設定されていない評価項目については、「実証により確認した数値等」)に達しない。
－	詳細説明資料(様式3)の「実証により確認した数値等」を確認できない。

注) 「現行基準値等」が設定されていない評価項目については、評価区分の「△」を適用しない。

注) 「×」が1つでもある場合には、技術として成立していない。

注) 「×」がない場合における「－」の取扱いについては、新技術活用評価会議による。

# 活用効果評価

## 1. 活用効果評価の手順

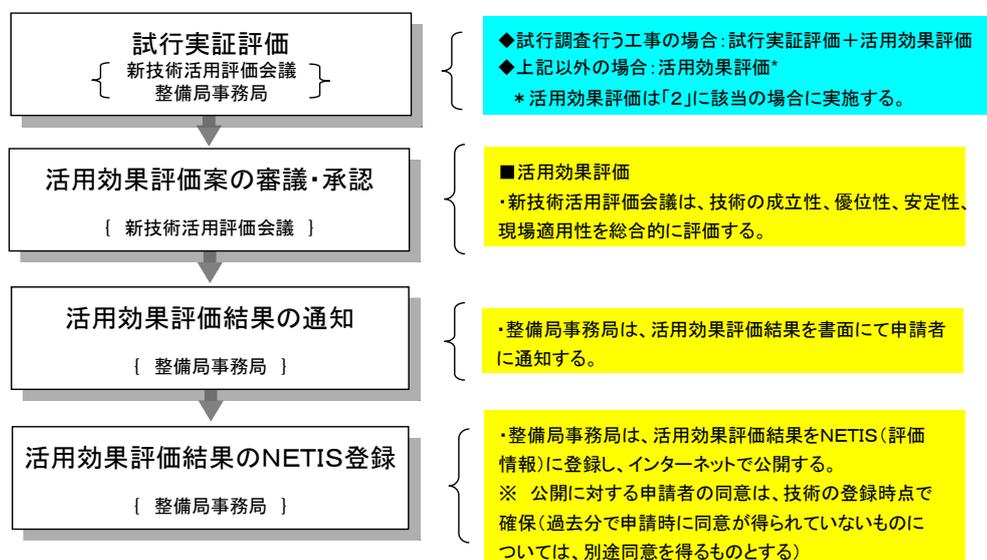


図6-2 活用効果評価の内容と流れ

## 2. 活用効果評価の実施時期

試行申請型及びフィールド提供型の場合は、以下のいずれかに該当する場合に、実施する。

<1回目>

・試行調査及び活用効果調査を実施した場合。

<2回目以降>

・活用効果調査の件数が累積で5件以上ある場合。

(3回目以降は発注者指定型及び施工者希望型と同様とする。)

発注者指定型及び施工者希望型の場合は、以下のいずれかに該当する場合に、実施する。

<1回目>

・活用効果調査の件数が5件以上ある場合。

<2回目以降>

・当該技術の前回の活用効果評価が行われた日から起算して1年以上経過し、かつ新たな活用効果調査結果が10件以上蓄積しNETIS申請者からの実施申請がある場合。

・前回の評価時に、「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」「推奨技術」「準推奨技術」に選定された技術及び追跡調査が必要と判断された技術で、かつ新たな活用効果調査が10件以上蓄積した場合。

※ 2回目の活用効果評価で使用する活用効果調査表は、前回の活用効果評価以降に実施された活用効果調査表とする。(ただし、追跡調査を実施した工事における活用効果調査表を除く。)

表6-2 活用効果評価の実施時期

	活用効果評価の回数	活用効果調査の件数	活用効果評価の実施時期	備考
試行申請型及びフィールド提供型	1回目の活用効果評価	1件以上	試行調査後、速やかに実施	■「安定性」、「現場適用性」の項目は評価されない
	2回目の活用効果評価	5件以上(累積)	速やかに実施	■追跡調査結果がある場合は、評価を行う。
	活用効果評価の回数	活用効果調査の件数	活用効果評価の実施時期	備考
発注者指定型及び施工者希望型	1回目の活用効果評価	5件以上	速やかに実施	
	2回目の活用効果評価	10件以上(前回の活用効果評価から)	・NETIS申請者からの実施申請が行われた場合は、速やかに実施 ・前回評価時に「設計比較対象技術」「少実績優良技術」「活用促進技術」「推奨技術」「準推奨技術」に選定された場合及び追跡調査が必要と判断された技術の場合は、速やかに実施	■同一年度内に実施される活用効果評価は1回のみ ■追跡調査結果がある場合は、評価を行う。

※1 活用効果評価で「安定性」、「現場適用性」の項目が評価されていない場合は、活用効果調査の件数が累積5件になった時点で速やかに全ての項目の評価を実施

※第三者機関の評価(技術審査証明書等)により成立性が確認されている場合は活用効果調査の件数が5件以上あるものと同等として扱い、活用効果調査の件数が1件以上で、NETIS申請者からの申請がある場合は、活用効果評価を実施できるものとする。

### 3. 評価基準

表6-3 活用効果評価の評価項目と評価基準

評価項目		評価基準	
①成立性	技術における機能、品質、性能等が確認されていること	試行申請型及びフィールド提供型	試行実証評価結果の良否
		上記以外	活用効果調査の件数等 審査証明書の取得の有無、既存の活用実績等
②優位性	従来技術に対して優れている度合い	活用効果調査結果の総合評価点	
③安定性	活用工事ごとの評価の安定度合い	各評価項目毎の評価が一樣に従来技術と同等程度以上であること	
④現場適用性	技術の適用範囲の広さ	好評価の活用工事の割合	

表6-4 区 分

区 分	特 徴		
	優位性	安定性	現場適用性
従来技術に比べて活用の効果は極めて優れている。 また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。	極めて優れる	評価の安定性を有す	広い
現場の適用範囲が十分検証されていないが、従来技術に比べて活用の効果は極めて優れている。 また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す。			特に広いとまではいえない
従来技術に比べて活用の効果は極めて優れている。ただし、活用の条件の違いに対する評価の安定性は無い。  (活用件数が少なく、評価の安定性が確認できない場合) ▽従来技術に比べて活用の効果は極めて優れている。ただし、活用件数が少なく評価の信頼度については留意を要する。		評価の安定性が無い 又は活用件数が少ない	
従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有し、多くの現場で良い評価を得ている。	優れる	評価の安定性を有す	広い
現場の適用範囲が十分検証されていないが、従来技術に比べて活用の効果は優れている。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す。			特に広いとまではいえない
従来技術に比べて活用の効果は優れている。ただし、活用の条件の違いに対する評価の安定性は無い。  (活用件数が少なく、評価の安定性が確認できない場合) ▽従来技術に比べて活用の効果は優れている。ただし、活用件数が少なく評価の信頼度については留意を要する。		評価の安定性が無い 又は活用件数が少ない	
従来技術に比べて活用の効果は同程度である。ただし、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す。	同等	評価の安定性を有す	
従来技術に比べて活用の効果は同程度である。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性が無い。  (活用件数が少なく、評価の安定性が確認できない場合) ▽従来技術に比べて活用の効果は同程度である。また、活用件数が少なく評価の信頼度については留意を要する。		評価の安定性が無い 又は活用件数が少ない	
一部項目については従来技術に比べ活用の効果はあるものの、総合的には、従来技術に比べ活用の効果は小さい。	劣る		
従来技術に対し、活用の効果は認められない			

## 苦情等の受付について

事後評価結果への理由説明要求書 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">平成    年    月    日</div>	
国土交通省 ○○地方整備局長（北海道開発局長） <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">○○ ○ 殿</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <small>ふりがな</small>            会 社 名  <small>法人印</small> </div> <div style="text-align: center;"> <small>ふりがな</small>            代表者氏名  <small>公 印</small> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">           所 在 地            電 話         </div>	
事後評価結果について、実施要領に基づき、次のとおり理由説明を要求します。	
登録技術名及び NETIS 登録番号	
事後評価結果の 通知日	
理由説明要求 の内容	
備 考	

# 事後評価結果の公表への異議申立書

平成 年 月 日

国土交通省

\_\_地方整備局長 / 北海道開発局長

殿

ふりがな  
会社名

法人印

ふりがな  
代表者氏名

公印

所在地

電話

事前審査結果・事後評価結果の公表について、実施要領に基づき、次のとおり異議申し立てをします。

登録技術名及び NETIS 登録番号	
事前審査結果・事後 評価結果の通知年月日	
異議申立の内容	
異議申立の理由	
備考	